

2021年6月1日
住友生命保険相互会社

団体年金特別勘定特約「円貨建株式口E」(ESG運用)の発売

住友生命保険相互会社(代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」)は、2021年10月より、団体年金特別勘定特約「円貨建株式口E」(ESG運用、以下「本商品」)を発売します。

環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)に着目したESG投資は、日本の投資家にも急速に浸透しつつあります。世界の持続的成長に欠かせないESGの視点と企業年金の長期的な運用スタンスは親和性が高いものと考えられ、企業年金のESG投資は拡大していくことが期待されます。

本商品は、日本株式を主な投資対象としたESG運用特化型商品であり、国内上場企業のESGへの取組みをアナリストが評価し、企業価値の向上が期待できる銘柄のほか、将来的にESG評価の向上が期待できる銘柄にも投資を行うことで中長期的な収益獲得を目指す運用を行うことが特徴です。

本商品の提供により、企業年金ポートフォリオにおける収益源の多様化を図りたいというニーズだけではなく、企業年金においても社会的課題の解決につながる取組みをしたいというSDGs推進・ESG経営の推進等といったニーズにもお応えできるものと考えています。

住友生命は、「社会になくてはならない保険会社」の実現を目指し、事業活動を通じたSDGsの達成に向けた取組みを進めています。そうした中で、脱炭素社会および持続可能な社会の実現に貢献するために、温室効果ガス排出量の2050年ネットゼロ*を目指し、世界共通の気候変動という社会課題解決に向けて、生命保険事業者・機関投資家の両面から取り組んでいます。

※2021年4月1日付ニュースリリース「温室効果ガス排出量ネットゼロに向けた削減目標の設定」を参照ください。
<https://www.sumitomolife.co.jp/about/newsrelease/pdf/2021/210401b.pdf>

本商品の提供は、SDGsの達成に向けた主要な取組みの1つである責任投資(ESG投融資およびスチュワードシップ活動)を推進するほか、人生100年時代を見据えた資産形成にも通じるものと考えています。

【本件を通じて貢献すると想定される主な SDGs 項目】

主に関連する SDGs 項目	住友生命の主な取組み
	人生 100 年時代を見据えたサービスや情報提供の推進
   	持続的な社会実現に向けた責任投資の推進

住友生命は、今後もお客さまの年金資産の運用に貢献できる商品提供や責任投資を通じ、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

以上

「円貨建株式口 E」(ESG 運用)の概要

1

ESG 評価に着目した国内株式運用を行います。

- ESG 評価とは、企業の環境変化（E：環境）・社会的変化への対応力（S：社会）と、それを持続可能とする企業経営の仕組み・取組み（G：ガバナンス）を評価することです。

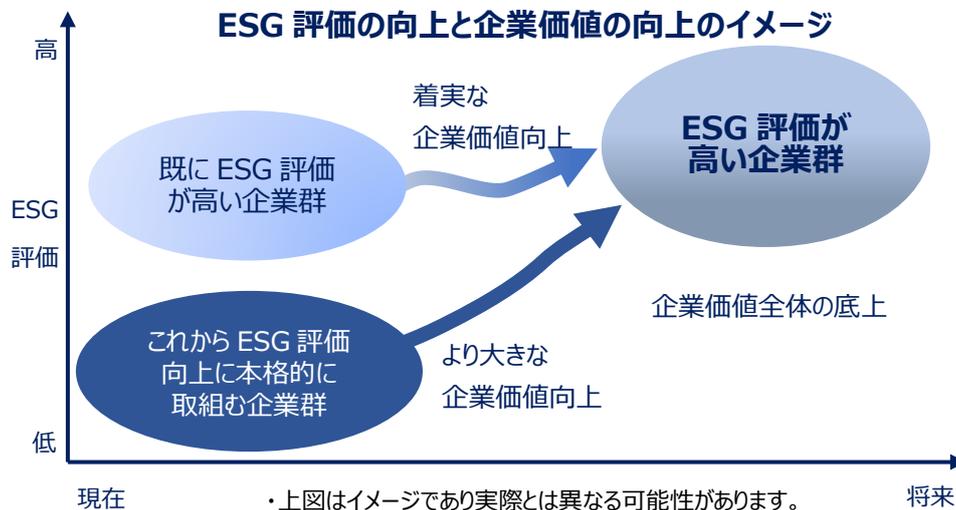
投資対象：日本の取引所に上場している株式 ベンチマーク：なし

収益の源泉：個別銘柄選択：100%

（個別銘柄選択にあたっては将来の ESG 評価の向上に着目しております。）

2

ESG 評価の優れた企業のみ投資するのではなく、アナリスト評価に基づき、**将来的に ESG 評価の向上が期待できる企業**にも投資を行うことで、**中長期的な収益獲得を目指します。**



- ◇ 本商品は三井住友 D S アセットマネジメント株式会社が提供する私募投資信託（SMDAM・年金日本株式 ESG ファンド〈適格機関投資家限定〉）の購入を通じて、株式に対する実質的な投資を行います。